

NPO法人 通信 第11号

★巻頭言

日頃より、NPO 法人道の活動にご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。倶楽部「道」開所 10 年を迎えた昨年度はこの活動報告通り、道工房、倶楽部「道」とともに充実した 1 年となりました。今年平成 25 年は、今となってはご存じの方も少ないと思いますが、あの「松坂の一夜」から 250 年となります。人と人の出会いの妙、一期一会の大切さを象徴するエピソードですが、「道」の 10 年を振り返りますと本当に多くの絶妙な縁に支えられてきました。とりわけ 10 年を迎えた感謝の意をお伝えする前に亡くなられた方々への思いは弥が上にも深まります。グループリビング設立の夢を熱く語られていたボランティアの T さん、食事や旅行などいつも一緒だったアパート下のおばあさん G さん、80 才を過ぎても若々しい発想で楽しい絵を描いていた T さん、そしてこの通信に記した K さん……。また「道」設立時に私の思いに賛同していただき、運営委員を引き受けて下さった K 病院精神科の看護師 S さんは、「感謝の集い」の招待状の返事に 1 月に 44 歳の若さで幼娘 3 人を残して他界されたとご主人からご連絡があり哀しさで呆然となりました。お会いしたのは 5 回あるかないか、他は電話と手紙のやり取りでしたが、いつか頂いたお手紙に「みなさんの姿が 1 人のナースを支えていることは確かです」との言葉がありました。熱意あふれる優秀なナースからのこの言葉は今も大きな支えになっております。こうした方々のことを時折思い出しながら、感謝をしてまた一步一步このひとすじの道を歩いて参りたいと思います。

平成 25 年 晩夏 岩立実勇